

【決意表明原稿】 中村 葵（アプリ本千葉）

アプリ児童デイサービス本千葉の中村葵です。新卒として今年度より勤務しています。僭越ではございますが、私がこの仕事にたどり着いたきっかけや、この8か月の私の仕事への取り組みを踏まえ、私の今後の課題等を決意表明としてお話しさせていただきます。

まず、私とこの仕事との出会いについてお話しします。

私は昨年までの大学時代、子供が安心して楽しく生活できる教室づくりがしたくて小学校教員になる為の勉強をしていました。教育だけでなく福祉や障害についても学び、大学のカリキュラムで特別支援学校や生活介護、就労支援の実習に行く機会もありました。障害を持つ方々と過ごし、福祉の仕事というのは自分が最も素直になれる仕事なのではないかと感じるようになりました。子供の頃から自分は教員になると信じて疑わず学んできたので、進路については非常に悩みましたが、私には教師としてクラス単位での指導を行うよりも、子供一人一人に愛情をもって密な支援をすることの方が向いているのだと徐々にわかるようになり、教育から福祉の道へ方向転換しました。そうして、就職活動は「児童」「福祉」「介護」といったキーワードで探すところから始まり、この会社と出会いました。面接等を通してその会社でお会いする人一人一人が素晴らしく、働きながら私自身も幸せになれるような気がしてこの会社に決めました。

入社して丸8か月が経ちました。振り返ってみると、子供達のために自分に出来ることはないかと奔走する毎日であったと思います。例えば、「子供達には楽しい、嬉しいという気持ちを沢山味わってほしい、でも、厳しい世界で生き抜いていくための力も身につけてほしい」という葛藤があります。

また、悩みや不安は子供達のことだけではありません。自らの判断や行動を振り返っては不安になることも多くあります。施設長をはじめとする先輩方を見ていると、自分の人間性やスキルの未熟さが際立ち、毎日1人で反省会をせずにはいられません。私は特に、一人でいくつもの問題を抱え込んで悩み、頭がいっぱいになってしまうことがあります。実際に、仕事と私生活の問題がいくつも重なってしまったとき、恥ずかしながら出勤するなり泣きだしてしまっただけでもありません。

そんな未熟な私を支えてくれたのは、同じ職場の上司や先輩方でした。施設長である平田さんは上司としてだけでなく、姉のような存在としても、会話を通して私の心を楽にしてくださいました。岩崎部長は、毎月の新卒研修の際に意見をとても深く聞いて私を知ろうとし、私が成長出来るように導いてくださいました。同じ職場の先輩方は人生の先輩として助言をくださったたり、応援して下さったりしました。平田さんと岩崎部長、本千葉の先輩方のもとで新社会人となれたことは、大変幸運なことだと常々思っています。

これから自分を成長させていきたいことは、いざというとき人を励ませるように自分の人間性を育てていくことと、問題を整理して優先順位を明確にして考えられるようになることです。そして、恵まれた環境で仕事出来る喜び、仕事を任せてもらえる喜び、子供の成長を見守ることが出来る喜びを心に留め、ゆくゆくは私も平田さんや岩崎部長のような器の大きな人間となって、子供達や周りの人々を幸せにする仕事をしていきたいと思っています。

最後になりましたが、まだまだ経験の浅い私が、皆様の前で決意表明をさせていただく機会を与えていただきありがとうございます。社会人1年目の自分の経験を振り返る良い機会となりました。

今後も初心を忘れず精進してまいります。

ご清聴頂きありがとうございました。